取付説明書

ミラーキャビネット

MFTV(1)、MAJX、MD7(1)シリーズ

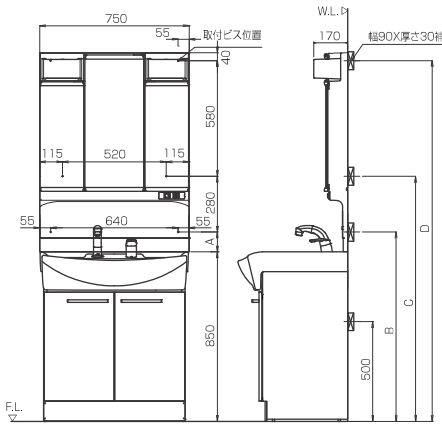
MFTV1-753TXP(U)(-G)
MFTV1-753TYP(U)(-G)
MFTV-753TX(U)(-G)
MFTV-753TY(U)(-G)
MAJX-753TZPU(-G)
MAJX-602TZPU(-G)
MD71-753TYPU
MD7-753TYU

取付前の注意

●取付けに際しては必ずこの取付説明書に従い正しく取り付けてください。
※この取付説明書に記載されていない方法で取り付けされ、それが原因で故障を生じた場合は、商品の保証をいたしかねますので、十分ご注意ください。
●「保証書（取扱説明書裏表紙）」は貴店名、取付日を忘れずに記入の上、必ずお客さまにお渡しください。
●取付業者さまは、商品の欠陥を生じさせる可能性などを有しているゆえに、取付業者さまが欠陥を生じさせた場合は過失責任を負うことを十分認識いただき、お客さまが安全で快適にご使用できるようにご協力ください。
●付属部品の内容と数量が合っていることを確認してください。

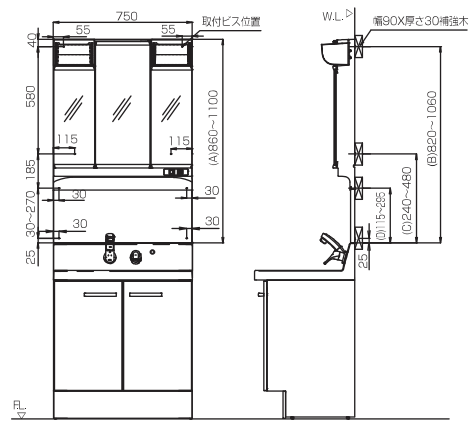
■寸法図（単位:mm）

MFTV1-753TXP(U)(-G)、MFTV1-753TYP(U)(-G)
MFTV-753TX(U)(-G)、MFTV-753TY(U)(-G)、MD71-753TYPU、MD7-753TYU

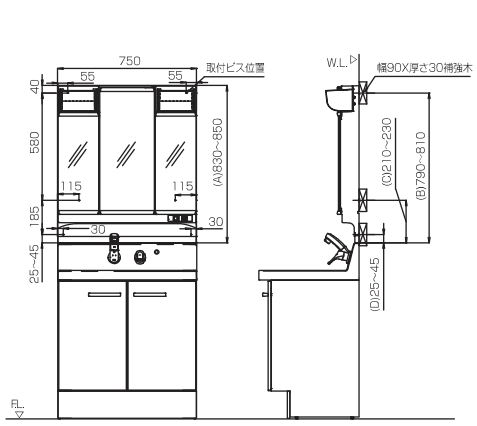


	品番	
	MFTV1-753TXP(U)(-G) MFTV-753TX(U)(-G)	MFTV1-753TYP(U)(-G) MFTV-753TY(U)(-G) MD71-753TYPU MD7-753TYU
A	100	30
B	950	880
C	1230	1160
D	1810	1740

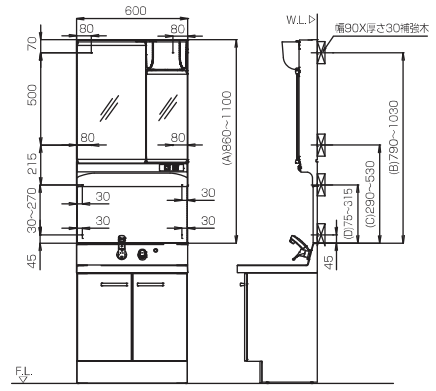
MAJX-753TZPU(-G)
○ミラー高さ(A寸法)　860mm～1100mmの場合



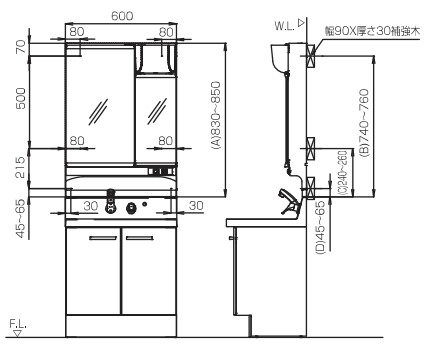
MAJX-753TZPU(-G)
○ミラー高さ(A寸法)　830mm～850mmの場合



MAJX-602TZPU(-G)
○ミラー高さ(A寸法)　860mm～1100mmの場合



MAJX-602TZPU(-G)
○ミラー高さ(A寸法)　830mm～850mmの場合



※化粧台の寸法･ビス位置は各化粧台の取付説明書をご確認ください。
※MAJXシリーズの場合ミラーキャビネットの高さ寸法は830mm～1100mmまで10mmピッチで調整可能です。
※寸法B･C･Dは寸法Aに合わせて、10mmピッチで変更してください。
※A寸法が860～920mmの場合は、D寸法115mm

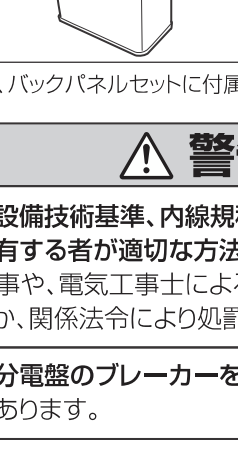
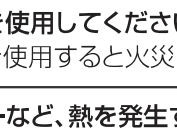
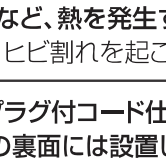
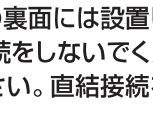
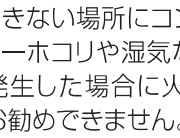
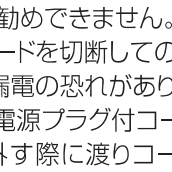
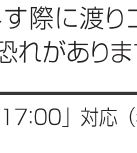
安全のために必ずお守りください

●ここでは取付けに際して守らないと人身事故や、家財の損害に結びつく注意事項を挙げています。作業前にこの項目をよくお読みいただき、正しく取付けてください。

●用語および記号の説明

⚠警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が損傷を負う可能性及び物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
⃠	「　禁　止　」を表します。
⃠	「分解禁止」を表します。
❗	「必ず行うこと」を表します。

■付属部品（□にチェックしてください）

	MFTV1-753TXP(U)(-G)、MFTV1-753TYP(U)(-G) MFTV-753TX(U)(-G)、MFTV-753TY(U)(-G) MD71-753TYPU、MD7-753TYU	MAJX-753TZPU(-G)	MAJX-602TZPU(-G)
部品名称	数量		
□ 本体固定用ねじ （皿ねじ φ4.5×60）		各4	各4	各6
□ 化粧キャップ用 連結ワッシャー				
□ 化粧キャップ				
□ 本体固定用ねじ （トラスねじ φ4.0×50）		2	2	–
□ 照明カバー ※MAJXシリーズは 形状が異なります。		2	2	1
□ トレイ		トレイ(小)×4 トレイ(大)×3	トレイ(小)×4 トレイ(大)×3	トレイ(小)×2 トレイ(大)×3
□ 白熱球 （品番にPが付かないとき）		2	–	–
□ 蛍光ランプ （品番にPが付くとき）		2	2	1
□バックパネルセット （MAJXシリーズのみ）		–	1	1
□ 歯ブラシ立て		1	1	1

※バックパネルの取付方法は、バックパネルセットに付属の取付説明書をご確認下さい。

⚠警告

❗ **電気工事は電気設備技術基準、内線規程など関連する法令・規定に従って必ず電気工事士の資格を有する者が適切な方法で行ってください。**
※無資格者の工事や、電気工事士による不適切な工事は、火災や漏電を引き起こす恐れがあるほか、関係法令により処罰されることがあります。

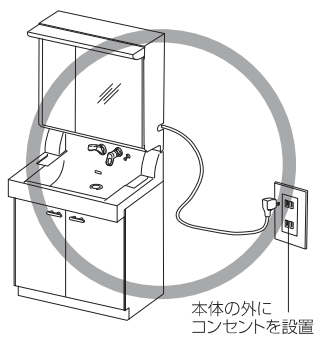
❗ **電気工事は必ず分電盤のブレーカーを切って行ってください。**
※感電の恐れがあります。

⃠ **改造はしないでください。また、修理技術者以外の人は、分解したり修理したりしないでください。**
※火災、感電、ケガ、故障の恐れがあります。

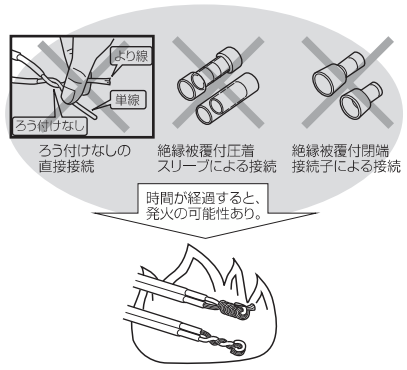
❗ **電源はAC100Vを使用してください。**
※AC100V以外を使用すると火災、感電、ケガ、故障の恐れがあります。

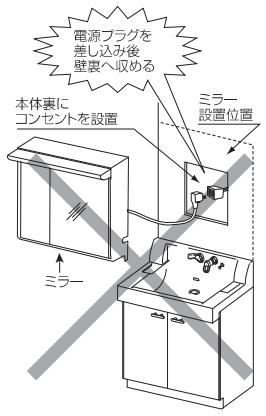
⃠ **ストーブやヒーターなど、熱を発生するものの近くに設置しないでください。**
※火災、変形や変色、ヒビ割れを起こす恐れがあります。

⃠ **■標準タイプ(電源プラグ付コード仕様)の場合**
コンセントは本体の裏面には設置しないでください。電源プラグ付コードを切断して不適切な直結接続をしないでください。電源プラグ付コードを取り外して直結接続をしないでください。直結接続を行う場合は直結配線タイプ(品番末尾-G)にて行ってください。
※点検･確認ができない場所にコンセントを設けると、万一ホコリや湿気などでトラッキングが発生した場合に火災の恐れがあるためお勧めできません。
※電源プラグ付コードを切断しての不適切な工事は火災、漏電の恐れがあります。
※標準タイプから電源プラグ付コードを取り外すと、取り外す際に渡りコードが緩み、発熱、発火の恐れがあります。



●不適切な取付例





⚠ 警告

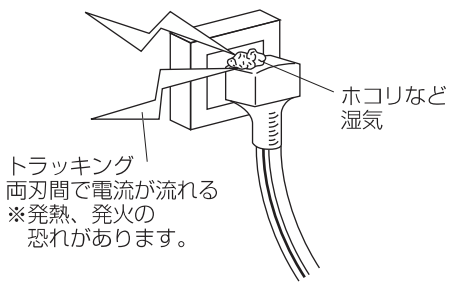
■直結配線タイプ(品番末尾-G)の場合
取付けの際は必ずこの取付説明書に記載されている直結配線の方法に従って、電源接続を確実に行ってください。標準タイプ(電源プラグ付コード仕様)では直結配線をしないでください。
※不適切な接続の場合は、火災や漏電の恐れがあります。
※標準タイプから電源プラグ付コードを取り外すと、取り外す際に渡りコードが緩み、発熱、発火の恐れがあります。

電源プラグ付コードなど各配線に、以下のことをしないでください。
・傷つける・無理に曲げる・無理な力を加える・束ねる・重いものを載せる・挟み込む
※火災、漏電や故障の恐れがあります。
※接続や固定が不完全な場合は、火災や漏電の恐れがあります。

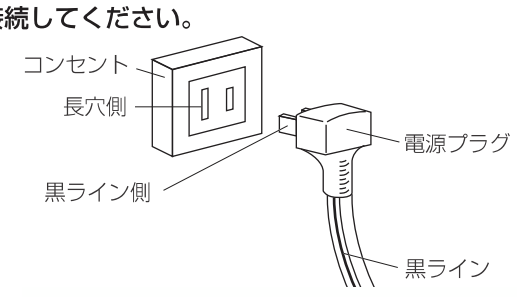
電源は必ず専用の回路を設けて接続してください。また、電源は110V、15Aまたは、20Aの過電流遮断器の設置された回路と接続してください。
※火災などの恐れがあります。

電源プラグを抜くときは、コード部分を持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜いてください。
※火災、感電の恐れがあります。

電源プラグをコンセントに接続する際は、電源プラグやコンセントの周辺の木屑、ゴミ、ホコリなどを取り除いてすき間がないように奥まで接続してください。
※木屑、ゴミ、ホコリなどがついているとトラッキング現象（電源プラグの刃の間に溜まった木屑、ゴミ、ホコリなどに湿気が加わり、両刃間で放電され、樹脂部が炭化し導電路が形成され、発熱、発火する現象）が発生し、火災の恐れがあります。



電源プラグをコンセントに接続する際は、電源コードの黒ラインが入っている側の刃をコンセントの長穴側に接続してください。
※電源プラグの刃を逆向きにコンセントに接続すると電球を交換する際にソケット部分に触れた場合に感電する恐れがあります。



浴室内などの高温多湿場所へは設置しないでください。
※感電や漏電の恐れがあります。

お願い

●**直射日光が当たる場合は必ずカーテンなどでさえぎってください。また、スポット照明や殺菌灯を直接当てないでください。**
※変色や変形、ヒビ割れを起こす恐れがあります。
●**酸性、アルカリ性および塩素系の洗剤類・ベンジン、シンナー、ラッカー、アルコールなどの溶剤や油類を使用して、キャビネットをふかないでください。**
※変色や変形、ヒビ割れを起こす恐れがあります。

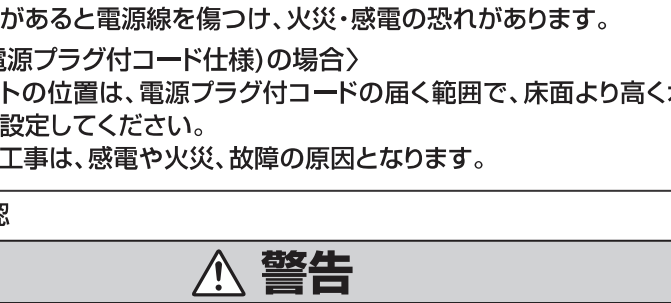
取付前の確認

1. 電源の確認

⚠ 警告

〈直結配線タイプ(品番末尾「-G」の場合)〉
●**取付前にあらかじめ下記の所定位置に電源線[VVF（単線）、φ1.6mmまたはφ2.0mm]が取り出してあることを確認しておいてください。**

図1 直結配線の穴位置



品　番	ミラー高さ(mm)	A(mm)	B(mm)	C(mm)
MFTV1-753TXP(U)-G	1000	1130	280	90
MFTV1-753TYP(U)-G	930	1060	210	90
MFTV-753TX(U)-G	1000	1130	280	90
MFTV-753TY(U)-G	930	1060	210	90
MD71-753TYPU	930	1060	210	90
MD7-753TYU	930	1060	210	90
MAJX-753TZPU-G	830～840	—	115	90
	850～890	—	155	
	900～940	—	205	
	950～990	—	255	
	1000～1040	—	305	
	1050～1100	—	355	
MAJX-602TZPU-G	830～840	—	320	155
	850～890	—	370	
	900～940	—	420	
	950～990	—	470	
	1000～1040	—	520	
	1050～1100	—	570	

注意:取り付ける化粧台の高さを確認してから、穴あけを行ってください。

●**電源線の有効長さが300mm以上であることを確認してください。**
●**穴あけした端部のバリがとってあり、電源線を傷つけないような状態であることを確認してください。**
※端部のバリがあると電源線を傷つけ、火災・感電の恐れがあります。

〈標準タイプ(電源プラグ付コード仕様)の場合〉
●**電源コンセントの位置は、電源プラグ付コードの届く範囲で、床面より高く水のかからない場所に設定してください。**
※誤った配線工事は、感電や火災、故障の原因となります。

2. 壁面工事の確認

⚠ 警告

取付強度を保てない場合、キャビネットが落下してケガをする恐れがあります。下記事項が守られていることを事前に確認のうえ、取付けを行ってください。

この説明書に記載されている「キャビネットを取付可能な壁面」以外には、取り付けないでください。記載の条件を満たさない場合は、壁を施工しなおしてください。

壁の不陸が5mm/2mを越える場合は、必ず壁を施工しなおしてください。

壁固定ねじは指定のものを、指定本数使用してください。

乾式壁の場合
●幅90mm×厚み30mm以上の補強木を「ねじ固定位置」（1ページ寸法図参照）に必ず設けてください。
●補強木は必ず柱・間柱・縦桟木など建築躯体に固定してください。また、補強木の固定部材は、キャビネットの固定強度（図1乾式壁参照）と同等以上になるよう、種類・数を選定してください。
●壁固定ねじが補強木の中心に25mm以上かかるように固定してください。
●壁固定ねじを補強木に届かせるため、壁仕上げの総厚さは12.5mm以下にしてください。
●石こうボードなどで補強木が見えない場合は、工務店さまに位置および固定方法を確認してください。さらに針刺しなどで壁固定ねじの位置に補強木の中心があることを確認してください。
●リフォームなどの現場で補強木位置が不明な場合は、石こうボードなどをはがして確認してください。また、補強木がない場合は必ず補強木を取り付けてください。

湿式壁の場合
●コンクリートブロック壁の場合、中空部はモルタル詰めしてください。
●AYボルトを壁本体に届かせるため、壁仕上げの総厚さは20mm以下にしてください。
●壁固定ねじに合ったAYボルトを使用して、キャビネットを取り付けてください。

キャビネットを取付可能な壁面

図2 乾式壁

●ボード類直張り　●ボード類胴縁取付け　●タイル仕上げ

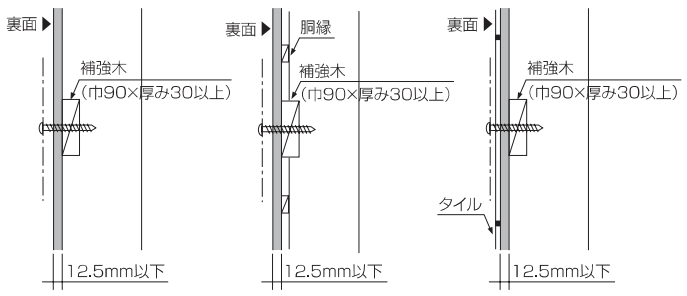
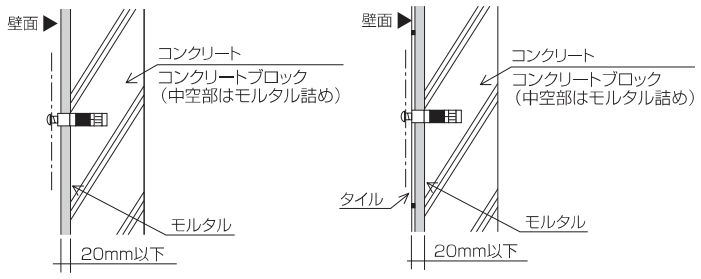


図3 湿式壁

●モルタル仕上げ　●タイル仕上げ



※本文中のねじ固定に関する記載は、乾式壁の場合についてです。
　湿式の場合は、下記要領で固定を行ってください。
※別途、下表のAYボルト及び、取付ビスセットを手配してください。

部品品番	MFTV(1)シリーズ MD7(1)シリーズ	MAJX-753TZPU(-G)	MAJX-602TZPU(-G)
	数量		
AYボルト 品番:#KB-4×60T(AY)	1セット	1セット	—
取り付けビスセット 品番:#KB-4×60SC(AY)	2セット	3セット	4セット

※AYボルトの取付穴は、穴径7.5mm、穴深さ60mm以上です。

〈湿式壁の場合の取付方法〉
①AYボルトの位置を確認し、位置出しをします。
②壁にφ7.5mmの下穴をあけ、切粉をよく取り除きます。
※下穴は電動ドリルを使用し正確にあけてください。
③AYボルトを挿入してゴム筒を押さえてボルトを抜き取ります。
④キャビネットを壁面に当て、ねじ穴からボルトで固定をします。

取付方法

⚠ 注意（品番にUが付く場合のみ）

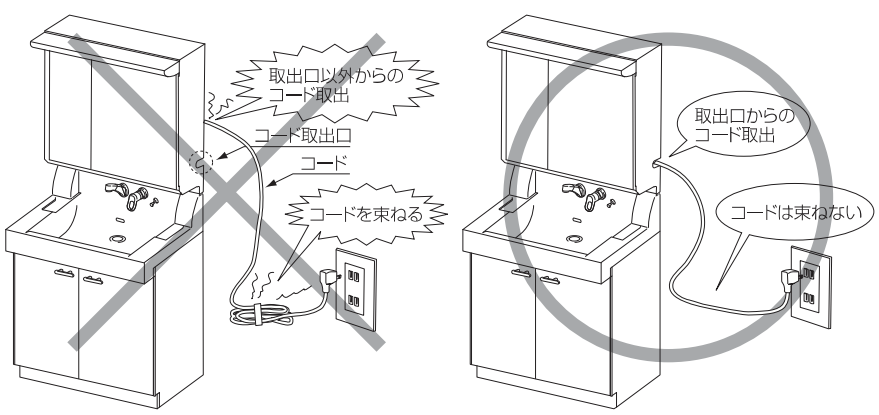
鏡の保護シートははがさないでください。
※この鏡には特殊なコーティングが施してあり、傷がつきやすくなっています。

1. 電源の準備
◆電源プラグ付コードの取出し〈プラグコードを使用する場合〉

⚠ 警告

電源プラグ付コードはコードを取出口より取り出し、キャビネット本体と壁の間に挟み込まないようにしてください。
※電源プラグ付コードを本体と壁にかみ込ませてしまうと発熱や発火の恐れがあります。
また製品にひずみが発生し、鏡や扉のひずみなど商品に悪影響が生ずる恐れがあります。

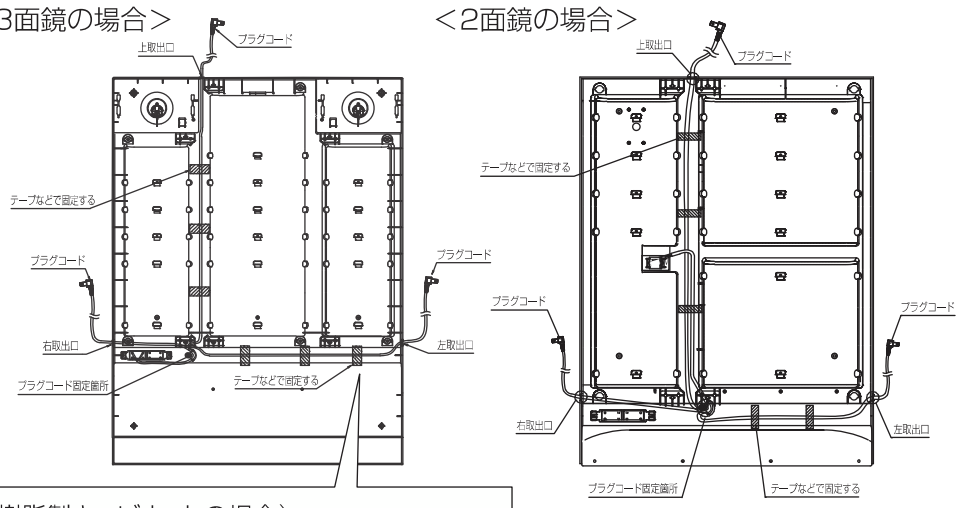
●不適切な取付例　●正しい取付例



電源プラグ付コードなど各配線に、以下のことをしないでください。
・傷つける・無理に曲げる・無理な力を加える・束ねる・重いものを載せる
・挟み込む
※火災や漏電、故障の恐れがあります。

電源プラグ付コードの取出方向を確認し、切り欠き部から取り出します。
※コード取出口は、左·右·上の3ヶ所にあります。

＜3面鏡の場合＞　＜2面鏡の場合＞



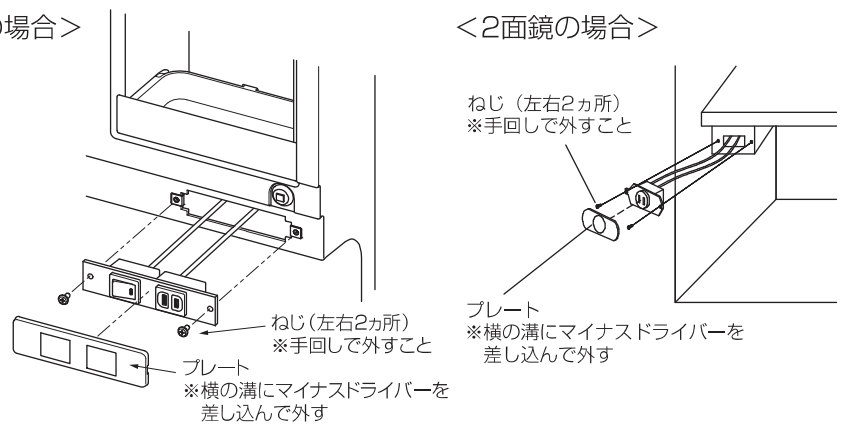
〈樹脂製キャビネットの場合〉
●電源コードの挟み込みが無いように、製品裏の空間に入れ込み、テープで固定してください。

配線取り回し図(裏面から見た状態)

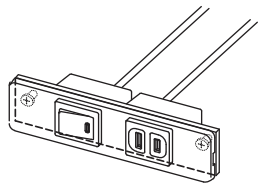
◆コンセントの取外し〈直結配線タイプ（品番末尾「-G」の場合〉
コンセントを取り外します。

※接続されている配線は抜かないでください。

＜3面鏡の場合＞　＜2面鏡の場合＞



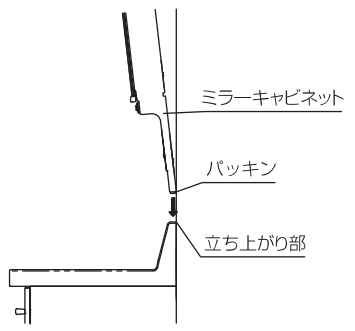
ワンポイント
外したねじとプレートはまた使いますので、なくさないようにしてください。
コンセントのねじ穴にねじを入れ、プレートをはめ込むと、一つにまとまります。



2. 位置決め
①洗面化粧台の立ち上がり部が水平であることを確認してください。水平がでていない場合は、ミラーキャビネットも水平に設置できません。また立ち上がり部が床面から正しい高さであることを確認してください。

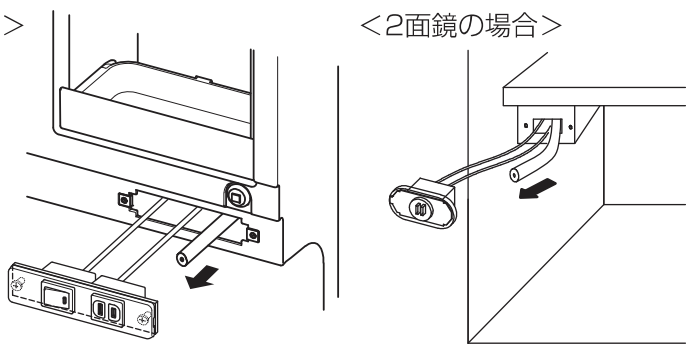
※水平器で水平を確認して下さい。

②ミラーキャビネットは洗面器の立ち上がり部に、水平にすき間のないようにセットします。（はめこみがきちんとされていない場合、水の侵入がおこりやすくなります。）



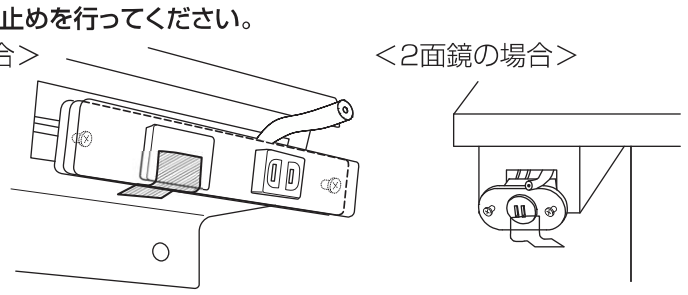
※直結配線タイプは電源線をコンセント開口部から引きこみながら設置してください。

＜3面鏡の場合＞　＜2面鏡の場合＞



●直結配線タイプはスイッチコンセントがぐらつかないように、テープ（マスキングテープなど）で仮止めを行ってください。

＜3面鏡の場合＞　＜2面鏡の場合＞

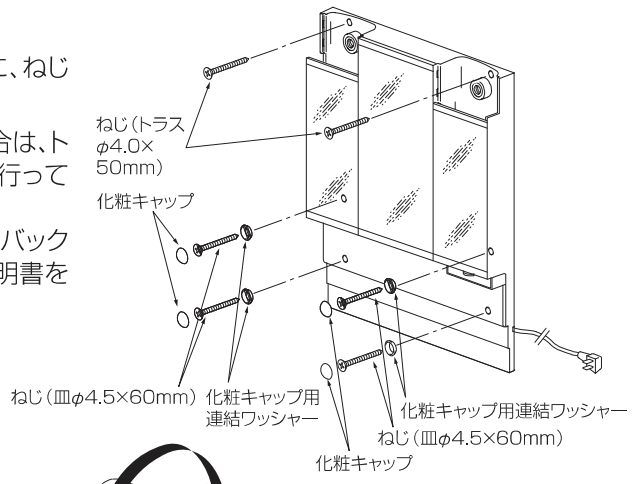


お願い

ミラーキャビネットの幅は、洗面器の幅よりも大きくなっている場合があります。ミラーキャビネットを洗面器に設置する際は、ミラーキャビネットのはみだし部分を左右均等になるようにしてください。
※どちらかに偏らせると、隣にサイドキャビネットを設置した場合、すき間が空いてしまいます。

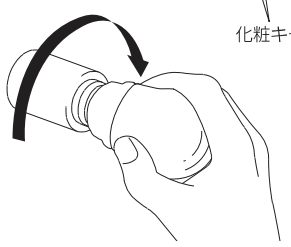
3. 壁固定

ミラーキャビネットを図のように、ねじで壁に6ヶ所固定します。
※ねじ穴付近にトレイがある場合は、トレイを取り外してから作業を行ってください。
※MAJXシリーズの取付けは、バックパネルセットに付属の取付説明書をご確認ください。



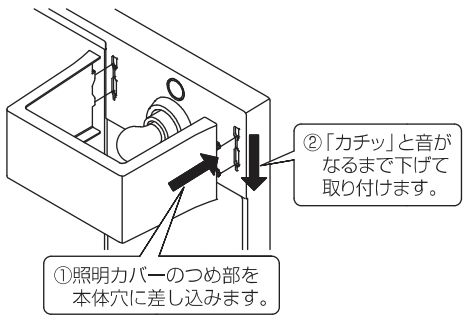
4. 照明の取付け

付属の電球をソケットに取り付けます。

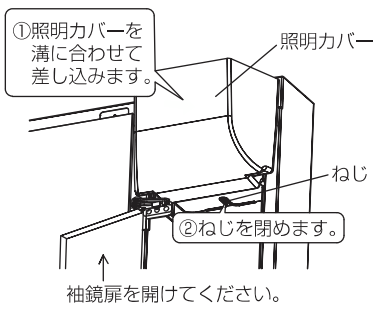


5. 照明カバーの取付け

＜3面鏡の場合＞



＜2面鏡の場合＞



※MAJXシリーズの場合は、照明カバーの形状が異なります。

直結配線の方法

電気工事

⚠ 警告

電気工事は電気設備技術基準、内線規程など関連する法令・規定に従って必ず電気工事士の資格を有する者が適切な方法で行ってください。
※無資格者の工事や、電気工事士による不適切な工事は、火災や漏電を引き起こす恐れがあるほか、関係法令により処罰されることがあります。

取付けの際は必ずこの取付説明書に記載されている直接配線の方法に従って、接続を確実に行ってください。

標準タイプ（電源プラグ付コード仕様）では直結配線をしないでください。
※不適切な接続の場合は、火災や漏電の恐れがあります。
※標準タイプから電源プラグ付コードを取り外すと、取り外す際に渡りコードが緩み、発熱、発火の恐れがあります。

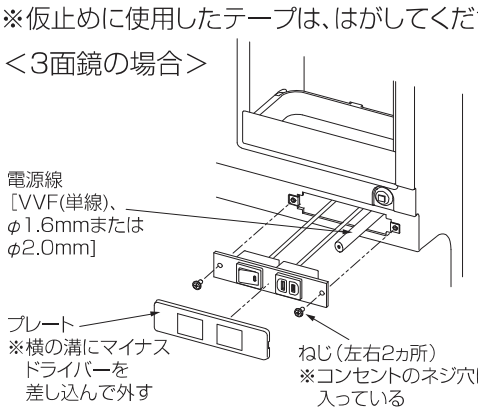
①取付前にあらかじめ 2ページ 、図1 直結配線の穴位置 の所定位置に電源線［VVF（単線）、φ1.6mmまたはφ2.0mm］を取り出してください。

電源線の有効長さを300mm以上にしてください。

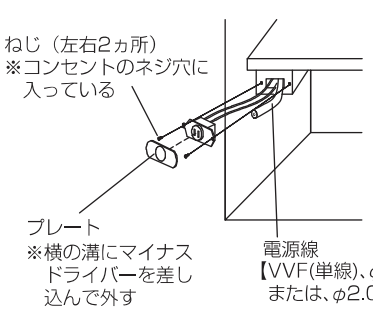
穴あけした端部は電源線に傷をつけないようにバリをとってください。

②電源線がコンセント開口部から出ていることを確認してください。
※仮止めに使用したテープは、はがしてください。

＜3面鏡の場合＞



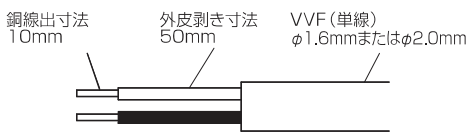
＜2面鏡の場合＞



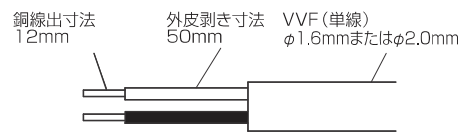
③電源線を以下のように加工してください。

VVFケーブルの被覆と外皮の剥き寸法

＜3面鏡の場合＞

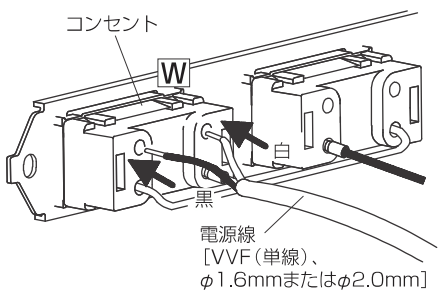


＜2面鏡の場合＞

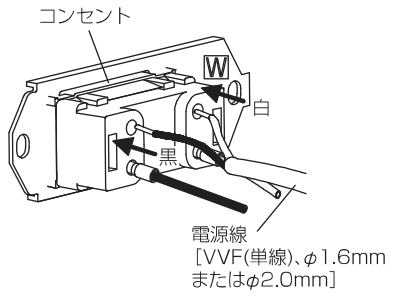


④電源線をコンセントの裏側に差し込んでください。電源線は端末先端が奥に当たるまで必ず確実に差し込んでください。
正確に接続されているかどうか1本ごとにかるく引っ張り、必ず確認してください。

＜3面鏡の場合＞

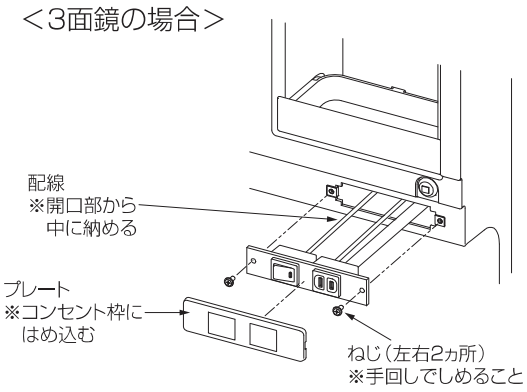


＜2面鏡の場合＞

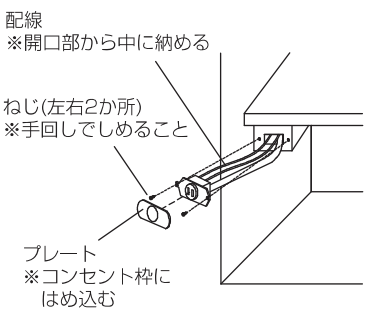


⑤配線を中に納め、元通りに取り付けてください。

＜3面鏡の場合＞



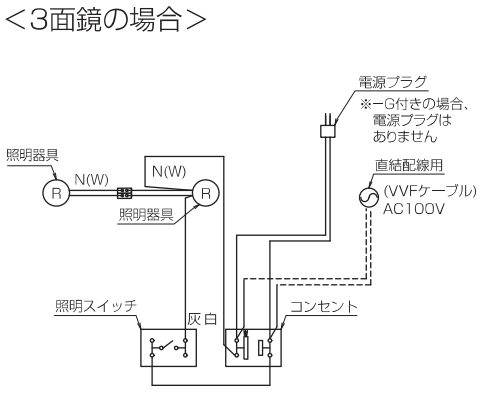
＜2面鏡の場合＞



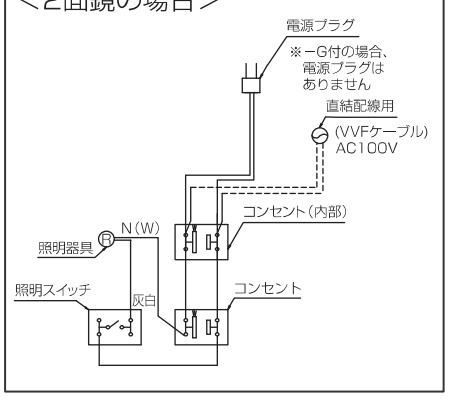
※電源線が長すぎて納まらない場合は、コンセントから電源線を抜き、適切な長さに切断し、③からやり直してください。

配線図

＜3面鏡の場合＞



＜2面鏡の場合＞



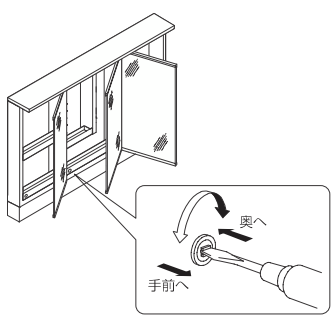
取付後の確認

■キャビネット本体の確認
①キャビネットの取付ねじが十分に締まっていること、緩みがないことを確認してください。
②キャビネット自体にガタつきがないこと、壁とキャビネットにすき間がないことを確認してください。
③ミラーキャビネットと化粧台バックガード部にすき間がないことを確認してください。

■照明の動作確認
ミラーキャビネットの電源プラグ付コードを建築側の電源コンセントに差し込み、スイッチボタンを押して、照明が動作することを確認してください。

■鏡扉の確認
左右の鏡扉に段差がある場合は、必ずマグネットキャッチの調節を行い、鏡の前面を合わせてください。

［マグネットキャッチ調節方法］
マイナスドライバーで調節します。
・手前に出す場合…左に回します
・奥に入れる場合…右に回します



お願い

製品についた汚れは、やわらかいぬれ布巾でふき取ってください。